

暑さを避けよう!



こまめに水分補給しよう!



バランスのよい食事を
心がけよう!



熱中症から 身を守ろう!



こども・高齢者は
特に注意が必要です!

**「熱中症特別警戒アラート」発表時は
特に注意が必要です!**

気温が特に著しく高くなることにより熱中症による重大な健康被害が生ずるおそれのある場合に「**熱中症特別警戒アラート**」が発表されます。

熱中症特別警戒アラートの発表地域では、自発的な熱中症予防行動を積極的に行うとともに、家族や周囲の方々への見守りや声かけなどを行いましょう!



熱中症を予防して元気な夏を！



夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。
熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう！



このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。



救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行く必要のある状態や、症状についても紹介しています。
当てはまる場合は、急いで119番しましょう。

※消防庁が作成した全国版救急受診アプリ「Q助」や「救急車利用リーフレット」も合わせてご覧ください。

（下記のQRコードをスマートフォンなどで読み取ることで、簡単に接続できます）



Q助サイト



救急車利用リーフレット



熱中症とは？

温度や湿度が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

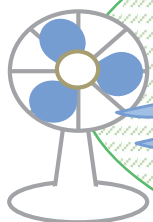
熱中症の分類と対処方法

重症度	症 状	対 処	医療機関への受診
	・めまい ・立ちくらみ ・こむら返り ・手足のしびれ	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・冷やした水分、塩分補給	・症状が改善すれば受診の必要なし
	・頭痛 ・吐き気・吐いた ・体がだるい ・集中力や判断力の低下	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・衣類をゆるめ体を冷やす ・十分な水分と塩分の補給	・口から飲めない場合や、症状の改善が見られない場合は、受診が必要
	・意識障害（受答えや会話がおかしい） ・けいれん ・運動障害（普段通りに歩けないなど） ・体が熱い	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・衣類をゆるめ保冷剤などで冷やす	・急いで救急車を要請

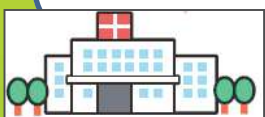
＋ 熱中症の応急手当 ＋

- ＋ 涼しい場所や日陰のある場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- ＋ エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす

首の周り・脇の下・太もものつけねなど太い血管の部分冷やす



飲めるようであれば水分をこまめに取らせる



持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう

熱中症は予防が大切です



熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。

熱中症予防行動のポイントとして、以下の項目を心がけてください。



- 部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。また、こまめに換気をしましょう。
- のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をしましょう。
- 涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避けましょう。
- 熱中症警戒アラート発表時は外出をできるだけ控え暑さを避けましょう。



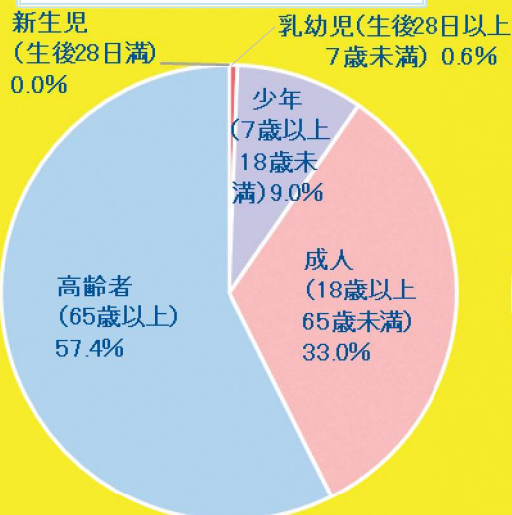
- ・熱中症による救急搬送人員の年齢区分別では、高齢者が半数以上を占めています。また、傷病程度別では、全体の約3割の方は入院（重症・中等症）が必要でした。
- ・発生場所別では、住居（敷地内全ての場所を含む）での発生が約4割を占めています。

※仕事場①：道路工事現場、工場、作業所等 仕事場②：田畑・森林、海・川等（農・林・畜・水産作業を行っている場合のみ）
 公衆(屋内)：不特定者が出入りする場所の屋内部分 公衆(屋外)：不特定者が出入りする場所の屋外部分

熱中症による救急搬送人員の内訳（令和6年）※5～9月の調査集計

【年齢区分別】

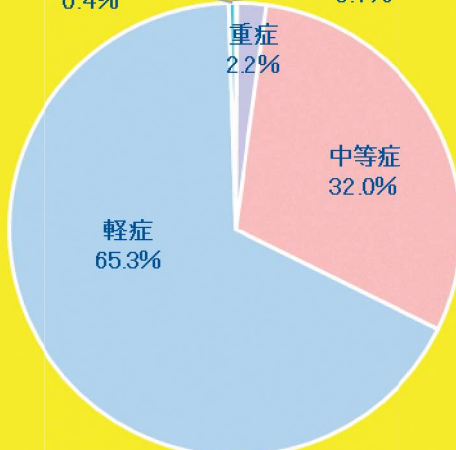
高齢者が半数以上を占めています。



【初診時における傷病程度別】

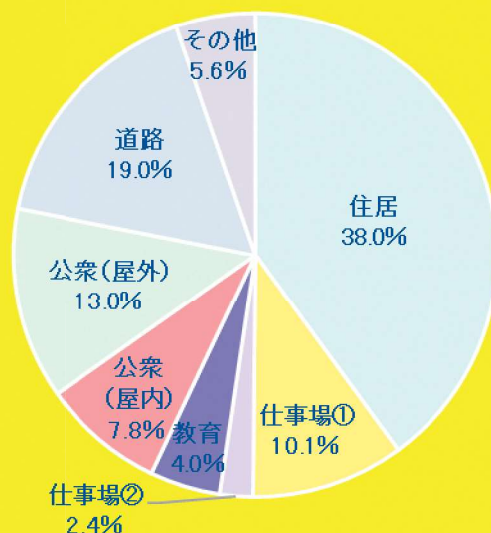
全体の約3割の方は入院（重症・中等症）が必要でした。

死亡 0.1%
 重症 2.2%
 中等症 32.0%
 軽症 65.3%
 その他 0.4%



【発生場所別】

住居（敷地内全てを含む）での発生が約4割を占めています。



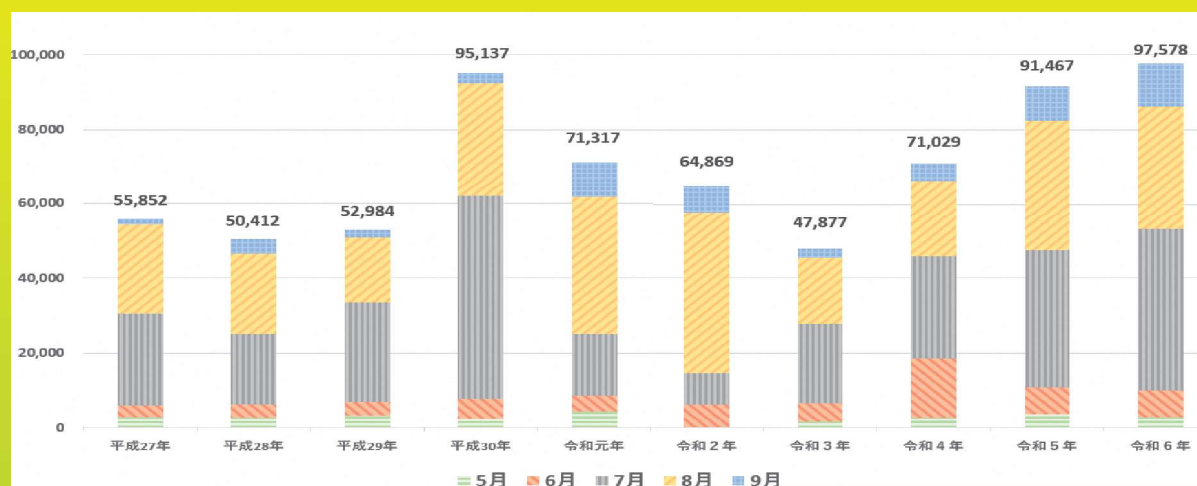
(注) 端数処理(四捨五入)のため、割合・構成比の合計は100%にならない場合がある。



令和6年は9万7,578の方が熱中症により救急搬送され、平成20年の調査開始以降、最多を記録しました。

熱中症による救急搬送人員の増加の要因として、気温や湿度等の上昇が関係していることが分かっています。特に、梅雨明け前後の暑さには、最も注意が必要です！

熱中症による救急搬送人員（平成27年～令和6年）※5～9月の調査集計（R2年は5月集計なし）



- ◆ 消防庁では「夏期における熱中症による救急搬送人員の調査」の速報を週ごとに公表しています。
 URL：<https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/post3.html#heatstroke01>

参考：環境省「熱中症環境保健マニュアル」

http://www.wbgt.env.go.jp/heatstroke_manual.php



消防庁

FDMA
 消防と大気

<https://www.fdma.go.jp/>

北見地区消防組合消防本部